

私を変えた先生との出会い

私が中学校を卒業したのは昭和38年3月である。卒業前の先生との進路面談での選択肢に高校進学は全くなかった。なぜなら私の家は貧しく、金銭的に余裕のある生活ではないことを実感していたからだ。少しばかりの田畑に、堆肥を撒く程度の農作物の収穫も期待できる程でもなかった。稲も家族が食べるにもギリギリだったと思う。唯一の収入源と言えば、秋に収穫できる澱粉用の甘藷と、父と祖父が泊まり込みで稼ぐ山林作業であった。私は、県外への集団就職を選び、家へ仕送りをする事しか頭になかった。

そんな時、担任の先生が、学校から遠い我が家まで自転車で来ていただき、両親に「高校に行かせてあげてください。」と頭を下げてください、私は高校を受験することになり、無事高校生になった。

卒業後、私は公務員となり、退職後は公務員に準ずるアルバイトに9年程携わっている。苦勞して高校に通わせてくれた両親には、今の夫と結婚でき、ある程度の生活ができたことが親孝行だと思う。

また、中学3年時の担任の先生とは、病院でお会いして、病院の反対側の薬局に手を引いて連れて行ったことくらいしか恩返しはしていない。今の自分がいるのは先生のお力だと、今も感謝は忘れていません。

廣瀬 安子

(一般)